

004

高円寺アパートメント防災マニュアル 製作ワークショップ

取組主体

株式会社百年防災社

従業員数

想定災害

実施地域

5人

全般

東京都

- 高円寺アパートメントの住民が主体となり、独自の防災マニュアルを作成。防災マニュアル作成をきっかけに、平時から災害時の助け合いを考えられるコミュニティを実現している。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

賃貸住宅の住民が主体となり防災ワークショップを開催し、防災マニュアルを作成

- 株式会社百年防災社は、マンションや分譲集合住宅と異なり、管理組合等が無い場合組織化が難しい賃貸住宅居住者に向けて、防災意識向上を目指した防災ワークショップの開催や防災マニュアルの作成に取り組んでいる。
- 令和3年2月に起きた震度4の地震を契機に、高円寺アパートメントの住民が主体となり防災ワークショップを提案し、令和3年5～6月にかけて全3回実施した。同社代表が講師となり企画や運営を行い、コロナ禍においてオンラインで開催し、高円寺アパートメント独自の防災マニュアルを作った。
- 自分たちができることはどこまでか、じっくり話し合い、住民が無理なく活動できるマニュアルとなっている。また、ライターやデザイナーの住民にマニュアルの最終的な仕上げを任せたことで、住民の個性が出て愛着が湧くものになった。
- 賃貸住宅で管理費等のまとまった資金がない中、同社への委託費の集め方を住民同士で話し合い、各世帯からマニュアル作成のための資金調達を行った。各世帯が委託費を負担したことで、住民の当事者意識も高まった。



オンラインでの住民による話し合い

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 賃貸住宅で入れ替わりが激しいが、引っ越してきたばかりの住民がワークショップに参加することにより、挨拶等のコミュニケーションが増えるきっかけになった。また、平日の昼間に誰がアパートメント内にいるか等を出し合うことで、平時の子育てにおける助け合いの可能性にもつながった。
- 定期的に既存のコミュニティで防災マニュアルのブラッシュアップを実施している。年に1回の定期的な更新は規定として設定しているが、その他にも都度、日常のつながりの中でメンテナンスを行っている。

3 現状の課題・今後の展開等

- ワークショップに参加できなかった住民の巻き込みと周辺施設との協議が必要である。住民全員が顔見知りになっていることが理想であり、今後も積極的に働きかけていきたい。また、避難者の受入れはアパートメントとして判断せず、町会とも連携し、垂直避難や水平避難の避難先について周辺地域と話し合う必要があると考えている。

担当者の声

- 賃貸だからという理由で、みんなで住宅を守るという考えはなかなか生まれにくいかもしれません。すぐに引っ越すかもしれない、と考えがちかもしれません。しかし、災害はいつ発生するか分からない、明日来るかもしれないのです。来てしまってから焦るのではなく、「今」からできることを一緒に考えるコミュニティが増えるといいなと思います。何から考えていいのか、何から取り組んでいいのか分かりにくい防災。でも実は、お隣さんと挨拶をすることも「防災」の一つです。身近なことから一つ一つ始めていく。まず、何ができるか一緒に考えて、みんなで生き延びる地域が増えることを願っています。

問合せ先

株式会社百年防災社 法人番号：7010001208849
TEL：03-4572-0612 FAX：03-6734-9130 E-Mail：info@100bou.jp

サイト URL

